

現代社会の部落差別

—古典的差別・現代的差別の視点から
意識調査データを読み解く

話題提供

内田 龍史氏 (関西大学社会学部教授)

古典的部落・部落問題認識の分析
-大学生への調査から

阿久澤 麻理子氏 (大阪公立大学人権問題研究センター教授)

部落差別における“現代的差別”とは
-レイシズム研究の文脈から

無料

9月21日(水) 午後1時30分~午後4時

大阪公立大学 人権問題研究センター

オンラインと対面開催を予定しています。

定員 対面 10名 ZOOM 100名

参加希望者は otazune@rchr.osaka-cu.ac.jp に前日正午までにご連絡ください。

定員に達し次第締め切りとさせていただきます。お問い合わせはセンターまで 06-6605-2035

差別は変容する。それは差別が「する側」の恣意によって、作り変えられるからである。ゆえに、差別主義(レイシズム)研究においては、マジョリティがどのように差別の言説・手段を作り変えるのかについても焦点をあててきた。今日、あからさまな差別が表出する場面は減少する一方で、差別はより構造的で微妙な形態をとるようになり、現代的差別、文化的差別、レッセ・フェール型差別など、「差別の変容態」の存在が指摘されている。

こうした差別の現代的変容は、部落差別においては、どのように立ち現れているのだろうか。また、変容せずにあることとは何なのか。各地の自治体が実施する、最近の人権意識調査の結果を参照しつつ、2021年度、関東・関西の6大学の新生を主な対象として実施した、部落問題に関する意識調査のデータをもとに、これを検証したい。

【新型コロナウイルス感染予防対策のため、ご協力をお願いいたします。】

※発熱や風邪のような症状のある方につきましては、参加をお控えください。

※かならずマスクの着用をお願いいたします。

※会場入口に消毒薬をご用意しておりますので、ご利用をお願いいたします。